

(子どもの人間関係づくり推進事業費)

平成 25 年度  
中 1 ギャップ問題未然防止事業

—報告書—

Ladder

平成 26 年 3 月  
北海道教育委員会

## 「発刊に寄せて」

本道においては、小学校6年生が中学校1年生に進学した際、不登校の子どもが約3倍に増加するとともに、いじめの認知件数についても4倍近くになるなど、いわゆる「中1ギャップ」の問題が全国と同様に顕在化しており、生徒指導上の喫緊な課題となっております。

こうしたことから、北海道教育委員会では、平成22年度から、「子どもたちの人間関係づくり推進事業」の一環として、「中1ギャップ問題未然防止事業」に取り組み、本年度は、昨年度から継続して実施する4中学校区に、新たに5中学校区を加えた9つの中学校区を指定し、事業を進めてまいりました。

各指定校区においては、昨年度の実践から明らかになった中1ギャップを解消するポイントである「小・中学校の緊密な連携体制の整備」、「児童生徒の人間関係を築く力の育成」、「児童生徒の学校生活への適応状況のきめ細かな把握と適切な支援」の3つの視点を踏まえ、「中1ギャップ解消プラン」を作成し、「人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続による工夫改善」、「学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善」など、地域の実態に応じた特色ある取組を実践してきたところです。

本報告書では、道内の小・中学校が小中連携を進める際の参考となるよう、指定校の実践をはじめ、その成果や効果的な取組とするためのポイントを具体的に掲載しており、今後、本報告書が、道内の各地域で積極的に活用され、子どもの人間関係づくりの能力の育成や小・中学校間の連携の取組が一層推進されることを期待しております。

結びに、本調査研究にお力添えをいただきました北海道医療大学の富家直明教授をはじめ、指定校の9中学校区の小・中学校の皆様に対して深く感謝申し上げます。

平成26年3月

北海道教育庁学校教育局参事（生徒指導・学校安全）

高塚 信之

# 目 次

## 第 1 章 解説編

- 北海道における「中 1 ギャップ」の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 平成 25 年度「中 1 ギャップ問題未然防止事業」・・・・・・・・・・・・ 2
- 「中 1 ギャップ」を解消するポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

## 第 2 章 実践編 ー指定校における取組ー

### I 指定中学校区の「中 1 ギャップ解消プラン」

- 岩内町立岩内第一中学校区における中 1 ギャップ解消プラン・・・・・・・・ 4
- 白老町立白老中学校区における中 1 ギャップ解消プラン・・・・・・・・ 8
- 長万部町立長万部中学校区における中 1 ギャップ解消プラン・・・・・・・・ 12
- 江差町立江差北中学校区における中 1 ギャップ解消プラン・・・・・・・・ 16
- 東神楽町立東神楽中学校区における中 1 ギャップ解消プラン・・・・・・・・ 20
- 枝幸町立枝幸南中学校区における中 1 ギャップ解消プラン・・・・・・・・ 24
- 網走市立第二中学校区における中 1 ギャップ解消プラン・・・・・・・・ 28
- 陸別町立陸別中学校区における中 1 ギャップ解消プラン・・・・・・・・ 32
- 別海町立別海中央中学校区における中 1 ギャップ解消プラン・・・・・・・・ 36

### II 指定中学校区における実践例

#### 1 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続による工夫改善

- ・よりよい人間関係を築くための取組  
(網走市立西小学校・中央小学校・第二中学校)・・・・・・・・・・・・ 40
- ・部活動体験の合同実施による児童生徒の交流など、小・中学校が連携した取組の  
実施(江差町立江差北小学校・江差北中学校)・・・・・・・・・・・・ 41
- ・「ほっと」を活用して児童理解の充実を図る取組  
(白老町立白老中学校・社台小学校・白老小学校・緑丘小学校)・・・・・・・・ 42
- ・「ほっと」や生活アンケートの実施、分析及び校内研修や学年会議等での活用の取組  
(長万部町立長万部中学校)・・・・・・・・・・・・ 43
- ・「ほっと」や生活アンケートの実施、分析及び校内研修や学年会議での活用の取組  
(枝幸町立枝幸南中学校)・・・・・・・・・・・・ 44
- ・「ほっと」や生活アンケートの実施(年 2～3 回)、分析及び校内研修や学年会議等  
での活用の取組(東神楽町立東神楽中学校)・・・・・・・・・・・・ 45
- ・子ども理解支援ツール「ほっと」や生活アンケートの実施(年 2～3 回)、分析及び  
校内研修や学年会議等での活用の取組(陸別町立陸別中学校)・・・・・・・・ 46
- ・「ほっと」や生活アンケートを活用した人間関係づくりの取組  
(別海町立別海中央中学校・別海中央小学校)・・・・・・・・・・・・ 47

#### 2 学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善

- ・ワーキンググループを活用した小中連携の取組  
(白老町立白老中学校・社台小学校・白老小学校・緑丘小学校)・・・・・・・・ 48

・小・中学校間での学習規律、生活規律の改善に関する一貫した取組の推進 (枝幸町立枝幸南中学校) . . . . .	49
・学習規律・生活規律の共通化と引継ぎの工夫 (網走市立西小学校・中央小学校・第二中学校) . . . . .	50
・小・中学校相互の授業参観や出前授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制の充実 (江差町立江差北小・江差北中学校) . . . . .	51
・9年間の学習環境整備の取組 (別海町立別海中央小学校・別海中央中学校) . . . . .	52
・小・中学校相互の授業参観や出前授業等、小・中学校が連携した指導方法・指導体制の充実の取組 (長万部町立長万部中学校) . . . . .	53
・小・中学校相互の授業参観や出前授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制の充実 (陸別町立陸別小学校・陸別中学校) . . . . .	54
・小・中学校間での児童生徒の学習状況や生活状況等の引継ぎの工夫改善の取組 (東神楽町立東神楽中学校) . . . . .	55

### 3 その他の取組

・児童生徒が学校や学級での生活によりよく適応することができるようにするための教育活動全体を通じたガイダンスの機能の充実 (岩内町立岩内第一中学校・岩内東小学校・岩内中央小学校) . . . . .	56
・児童生徒が学校や学級での生活によりよく適応することができるようにするための教育活動全体を通じたガイダンスの機能の充実 (江差町立江差北小学校・江差北中学校) . . . . .	57
・児童生徒が学校や学級での生活によりよく適応することができるようにするための教育活動全体を通じたガイダンスの機能の充実 (網走市立西小学校・中央小学校・第二中学校) . . . . .	58
・いじめ根絶に向けた児童生徒の主体的な取組 (別海町立別海中央小学校・別海中央中学校) . . . . .	59
・小・中学校と家庭・地域が連携・協力した取組 (白老町立白老中学校・社台小学校・白老小学校・緑丘小学校) . . . . .	60
・学校や地域の実情に応じた取組～小・中連携による取組～ (長万部町立長万部中学校) . . . . .	61
・小・中学校と家庭・地域が連携・協力した取組の工夫 (陸別町立陸別小学校・陸別中学校) . . . . .	62
・その他学校や地域の実情に応じた取組 (枝幸町立枝幸南中学校) . . . . .	63

## 第3章 検証編

○ 指定校区におけるいじめ・不登校の状況 . . . . .	64
○ 平成25年度における本事業の成果と課題 . . . . .	65

## 資料

中1ギャップ問題未然防止事業実施要項 . . . . .	66
------------------------------	----

# 第1章

## 解説編

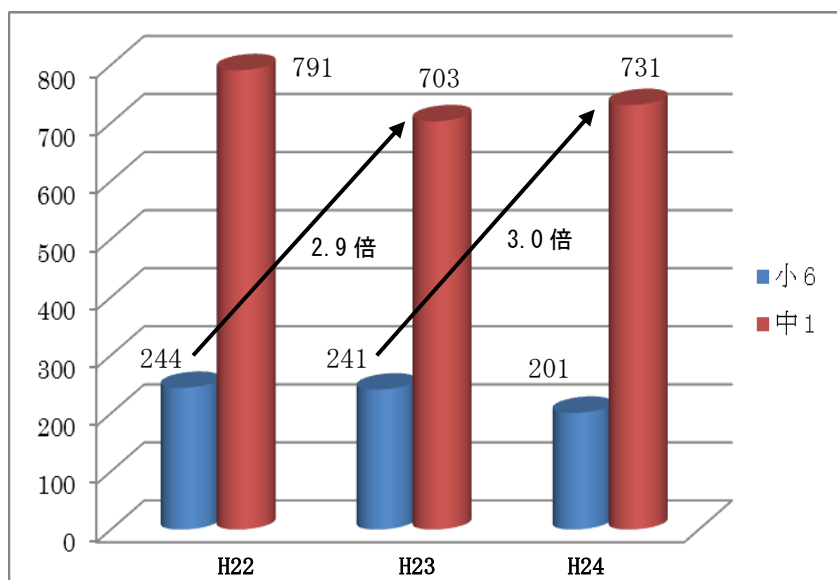
第1章では、北海道における「中1ギャップ問題」の現状と、その解消に向けて、北海道教育委員会が平成22年度から実施している「中1ギャップ問題未然防止事業」の取組を紹介します。

## 北海道における「中1ギャップ」の現状

北海道では、中学校1年生において、小学校6年生に比べて不登校やいじめが大きく増える現象、いわゆる「中1ギャップ」問題が続いています。

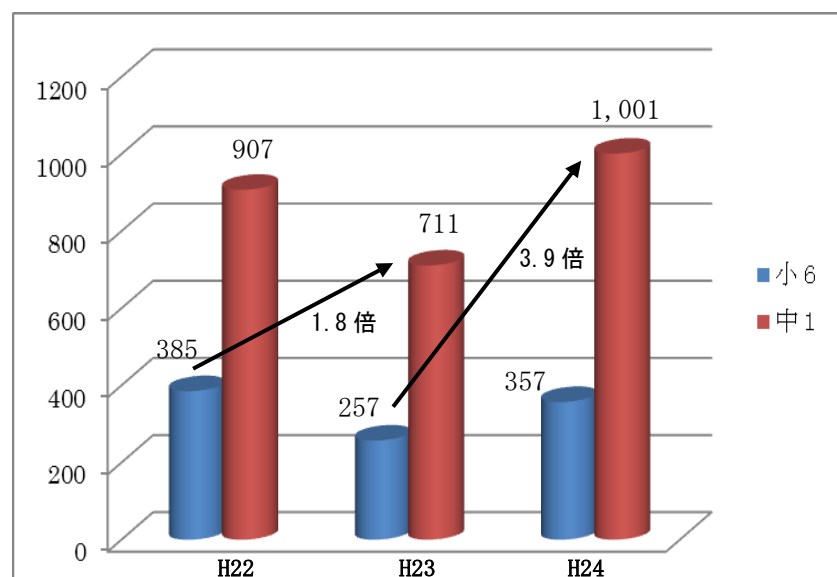
この問題の要因としては、一人一人を細やかに見守る環境の中で生活していた子どもが、中学校に入学して、自分の責任で判断し行動することを求められるなど、小学校と中学校の学校制度や教員の指導のギャップにより、新しい学習環境や人間関係につまずいて、学校生活への不適応を起こしていることなどが指摘されています。

図1 本道における小6と中1の不登校児童生徒数



文部科学省が毎年実施している「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において、北海道の不登校児童生徒数は、平成22年度の小学校6年生が244人であったのに対し、平成23年度の中学校1年生は703人と約2.9倍に、平成23年度の小学校6年生が241人であったのに対し、平成24年度の中学校1年生は731人と約3.0倍に、増加しています。(図1)

図2 本道における小6と中1のいじめの認知件数

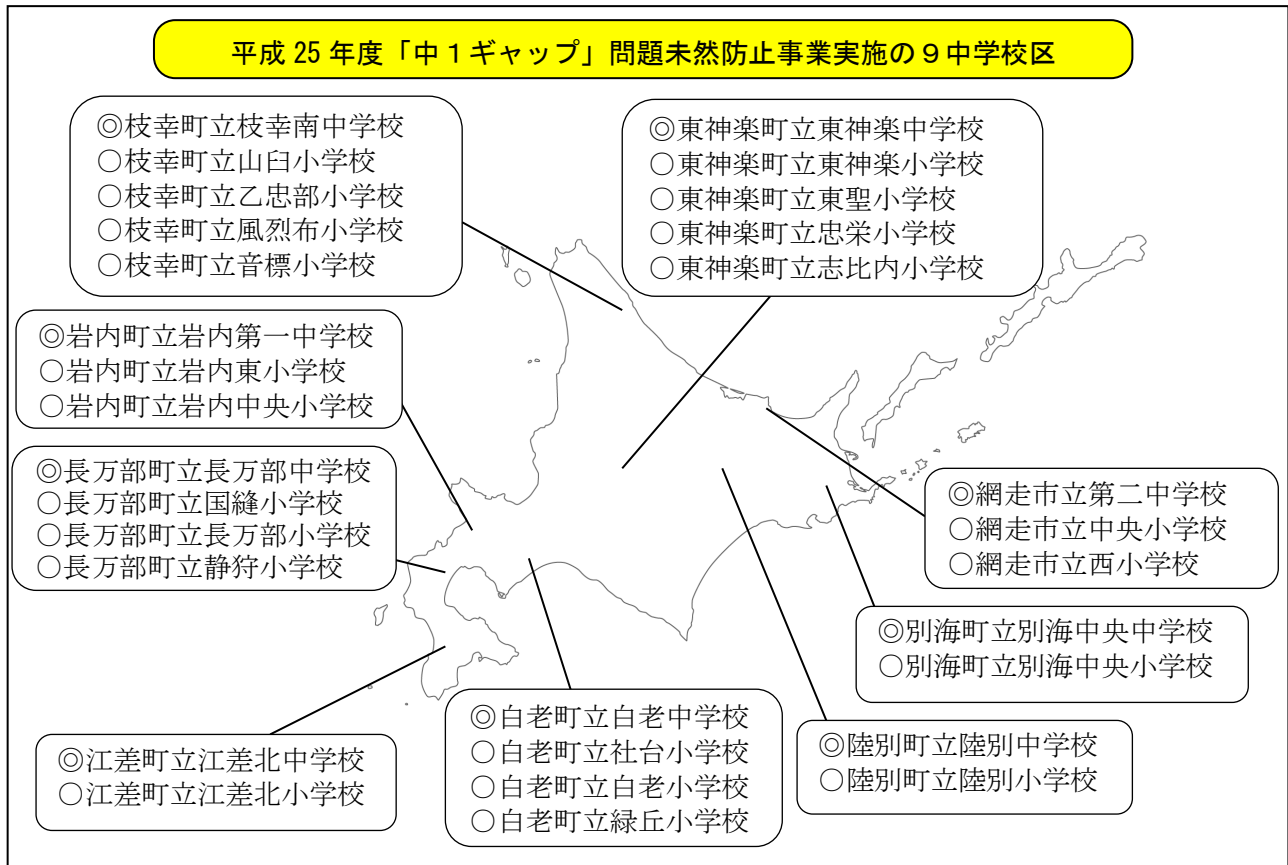


同様に、北海道のいじめの認知件数は、平成22年度の小学校6年生が385件であったのに対し、平成23年度の中学校1年生は711件と約1.8倍に、平成23年度の小学校6年生が257件であったのに対し、平成24年度の中学校1年生は1,001件と約3.9倍に、増加しています。(図2)

## 平成 25 年度「中 1 ギャップ」問題未然防止事業

北海道教育委員会では、「中 1 ギャップ」問題の解消を目指して、平成 22 年度から「中 1 ギャップ問題未然防止事業」を実施し、平成 25 年度は道内の 9 中学校区において、学校や地域の実情に応じた取組を進めています。

### 平成 25 年度「中 1 ギャップ」問題未然防止事業実施の 9 中学校区



### ◆ 事業実施市町村教育委員会、拠点校・連携校の取組 ◆

- 1 小・中学校の緊密な連携による推進体制の整備
  - ① 「中 1 ギャップ検討委員会」の設置
  - ② 中 1 ギャップ解消プランの作成
- 2 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続
  - ① よりよい人間関係を築くために必要な社会的スキルを育成する活動の教育課程への位置付け
  - ② 学校行事、児童会・生徒会活動、クラブ活動や部活動、自然体験活動、ボランティア活動の合同実施による児童生徒の交流などの取組の実施
  - ③ 「ほっと」や生活アンケートの実施（年 2～3 回）、分析及び校内研修や学年会議等での活用
  - ④ 教育相談や学習・生活に関する記録に基づく合同の事例検討、実践交流等の実施
  - ⑤ スクールカウンセラーや指導主事等を講師とした合同研修会の実施
- 3 学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な接続による工夫改善
  - ① 学習規律、生活規律の改善に関する一貫した取組の推進
  - ② 9 年間を見通し、学年相互の関連を明確にした指導計画の整備
  - ③ 相互の授業参観や出前授業等、小・中学校が連携した指導方法、指導体制の充実
  - ④ 家庭学習（予習や復習、宿題等）における内容や方法についての連携
  - ⑤ 児童生徒の学習状況や生活状況等の引継ぎの工夫改善
  - ⑥ 中学校における学級編制や個に応じた指導に生かすための、小学校における学習内容の定着状況の共有
- 4 その他の取組
  - ① 児童生徒が学校や学級での生活によりよく適応することができるようにするための教育活動全体を通じたガイダンスの機能の充実
  - ② 合同のいじめ根絶に向けた子ども会議など、児童生徒が主体となった取組の実施
  - ③ 生活リズムや家庭での過ごし方（家庭での学習時間を含む）等に関する家庭との連携の充実
  - ④ 学校と家庭、地域が連携・協力した取組の工夫
- 5 事業成果の普及

## 「中1ギャップ」を解消するポイント

平成 22 年度から各指定校区において、先行研究を参考にして実践研究を進め、「中1ギャップ」を解消するための4つのポイントを整理しました。

### ポイント1

#### 「小・中学校の緊密な連携体制の整備」

- 中学校区を単位とした「中1ギャップ検討委員会（仮称）」などの小学校と中学校の連携を推進・検証する組織を立ち上げること。
- 「中1ギャップ検討委員会（仮称）」などで、小・中学校の児童生徒、教職員、保護者間の継続的な交流活動を企画・立案、実施すること。
- 9年間を通じて子どもを育てる視点から、小学校と中学校の引継ぎや情報交換、実践交流や共通実践を工夫すること。 など

### ポイント2

#### 「児童生徒の人間関係を築く力の育成」

- 小学校の段階から、社会的スキルなどの人間関係を築く力を意図的・計画的に育成すること。
- 児童生徒が「自己有用感」を認識し、「達成感」を獲得できる教育活動を工夫すること。
- グループエンカウンターやピア・サポート活動、ソーシャルスキルトレーニングなどの取組を効果的に活用すること。 など

### ポイント3

#### 「児童生徒の学校生活への適応状況のきめ細かな把握と適切な支援」

- 学校への適応状況等を定期的に把握し、適切な支援を継続的に行うため「ほっと」、「アセス」、「Q-U」などのアンケートを有効に活用すること。
- 教師間の観察や各種調査・アンケートの客観的なデータを活用して、児童生徒理解を深め、共通実践を図る校内研修等を工夫すること。 など

### ポイント4

#### 「小・中学校における学習指導や生活指導の円滑な接続」

- 小・中学校間で学習規律や生活規律、指導方法・指導体制、学習の内容や方法についての連携を図り、学校間・学年間での一貫した取組を進めること。 など



# 第2章

## 実践編

### —指定校における取組—

第2章では、平成25年度「中1ギャップ問題未然防止事業」に取り組んだ全道の9中学校区における中1ギャップ解消に向けた具体的な取組を紹介します。

# I 指定中学校区の

## 「中1ギャップ解消プラン」

# 岩内町立岩内第一中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	岩内町立岩内第一中学校	(生徒数 168 名)
連携小学校名	岩内町立岩内東小学校	(児童数 164 名)
連携小学校名	岩内町立岩内中央小学校	(児童数 279 名)

## 本プランの特徴

- スクールカウンセラーと連携し、いじめや不登校への対応について教員のスキルアップを図っています。
- 「QU」「ほっと」の実施及び活用により、児童生徒が抱えている課題や問題点を把握しています。
- 小・中学校の児童生徒の交流事業を実施し、児童の不安解消を図っています。

## 1 中学校区の特徴

当町は、小学校3校に対し中学校が2校であり、岩内中央小学校の児童が中学校へ進学する際には、岩内第一中学校と岩内第二中学校に二分される状況となっている。岩内第一中学校には、岩内東小学校の全児童と岩内中央小学校の約半数の児童が進学することになる。人数的には各校ほぼ同数であり、いずれも新たな人間関係を構築していかなければならない状況となっている。

## 2 中学校区の課題

生徒の多くは素直で真面目であり、学校行事や部活動に一生懸命取り組む姿勢が見られるが、勉強が将来に役立つという意識が不足しており、家庭における望ましい学習・生活習慣が定着していない状況が見られる。また、コミュニケーション能力の不足等に起因する、暴力行為やいじめなどの問題行動も散見される。不登校については、岩内第一中学校の不登校生徒数が、2つの小学校での不登校児童数の3倍となっており、中1ギャップへの対応が必要とされている。

## 3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) いじめや不登校について、教員の生徒指導の力量を上げること
- (2) 小・中学校間の連携により、事前に中学校への不安感を軽減させること
- (3) 「QU」や「ほっと」を活用し、学校への適応状況を早期に発見し、適切な支援を行うこと

## 4 中1ギャップ検討委員会の組織

所 属	役 職	所 属	役 職
岩内町立岩内第一中学校	校 長	岩内町立岩内中央小学校	校 長
岩内町立岩内第一中学校	教 頭	岩内町立岩内中央小学校	教 頭
岩内町立岩内第一中学校	教諭（教務担当）	岩内町立岩内中央小学校	教諭（教務担当）
岩内町立岩内東小学校	校 長	岩内町教育委員会	教育課長
岩内町立岩内東小学校	教 頭	岩内町教育委員会	教育課係長
岩内町立岩内東小学校	教 諭	岩内町教育委員会	主 事

## 5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	岩内町立岩内第一中学校	岩内町立岩内東小学校・岩内町立岩内中央小学校
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育委員会、拠点校、連携校の管理職による事業推進体制の打合せ、及び小・中学校不登校対策連絡会中1ギャップ部会の設立</li> <li>○ スクールカウンセラーの配置・活用の検討</li> <li>○ 「QU」「ほっと」の実施方法の検討</li> <li>○ いじめアンケート（道教委）6月分の状況確認</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px;">小・中学校不登校対策連絡会第1回中1ギャップ部会開催</span>  <b>【協議内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中1ギャップ解消プランの策定</li> <li>・スクールカウンセラーの活用方針</li> <li>・「ほっと」等の活用ツールの選定</li> <li>・小・中交流事業内容の策定</li> </ul> </li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px;">小・中学校不登校対策連絡会第2回中1ギャップ部会（教育相談①）開催</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒を抱える担任に対するスクールカウンセラーによる指導</li> <li>・不登校児童生徒及びその保護者に対するスクールカウンセラーによる個別指導</li> </ul> </li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ほっと」の実施（1回目） <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施学年：第1学年</li> </ul> </li> </ul>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px;">小・中学校不登校対策連絡会第3回中1ギャップ部会（教育相談②）開催</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校が懸念される児童生徒の保護者へのスクールカウンセラーによるカウンセリング（拠点校・連携校の全保護者へ周知）</li> <li>・不登校児童生徒を抱える担任へスクールカウンセラーによる継続指導（先月の個別指導の実施状況を踏まえ、今後の対応策等を指導）</li> </ul> </li> <li>○ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px;">小・中学校交流事業</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩内町立小・中学校音楽交歓会の実施</li> </ul> </li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 拠点校校内研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほっと」の活用方法と活用事例</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校第6学年における中学校での生活に関するアンケート調査の実施</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">小・中学校不登校対策連絡会第4回中1ギャップ部会（教育相談③）開催</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒を抱える担任へスクールカウンセラーによる継続指導（前月の個別指導の実施状況を踏まえ、今後の対応策等を指導）</li> </ul> </li> <li>○ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">小・中学校不登校対策連絡会第5回中1ギャップ部会（研修会）開催</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中1ギャップ問題未然防止対策事業小・中合同研修会の開催</li> </ul> </li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「QU」の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施学年：第1学年</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「QU」の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施学年：第6学年</li> </ul> </li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">小・中学校交流事業</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教員による小学校第6学年を対象とした乗り入れ授業  岩内町立岩内東小学校                      外国語活動  岩内町立岩内中央小学校                      外国語活動</li> </ul> </li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ほっと」の実施（2回目） <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施学年：第1学年</li> </ul> </li> <li>○ 1日体験入学の受入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学校での1日体験入学</li> <li>○ 保護者参観の実施</li> <li>○ 春休みの課題内容についての準備</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">小・中学校不登校対策連絡会第6回中1ギャップ部会（教育相談④）開催</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒を抱える担任へスクールカウンセラーによる継続指導（11月の個別指導の実施状況を踏まえ、今後の対応策等を指導）</li> </ul> </li> <li>○ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">小・中学校不登校対策連絡会第7回中1ギャップ部会開催</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校第6学年における中学校生活に関するアンケート調査の結果報告</li> <li>・「QU」の結果報告</li> <li>・小学校第6学年における中学校生活に関するアンケート調査の結果及び「QU」の結果を踏まえた中学校への児童の引継ぎ</li> <li>・岩内町の不登校児童生徒の分析結果の報告</li> </ul> </li> </ul>	

## 6 事業の成果

- 「ほっと」の活用により、客観的なデータに基づく生徒理解を行うことができた。
- 「ほっと」の結果を教員間で共有することにより、共通した生徒理解のもとで生徒指導を行うことができた。
- 小・中合同行事や乗り入れ授業等を実施したことにより、中学校は、入学してくる児童の様子を事前に把握することができ、児童の中学校に対する不安感を軽減することができた。
- 「QU」を実施したことにより、中1ギャップに陥りそうな児童を把握することができ、中学校における友人関係や学習意欲など配慮を要する項目を明確にすることができた。

### 小学校第6学年 実施78名中

要支援群	3名(3.8%)	侵害行為認知群	10名(12.8%)
学級生活不満足群	15名(19.2%)	学級生活満足群	38名(48.7%)
その他	12名(15.5%)		

- スクールカウンセラーと連携し、不登校児童生徒の特徴や傾向を明確にすることができた。

【状況】	・いわゆる「引きこもり」の不登校はいない。 ・「何となく学校に行きたくない。」「学校に行っても勉強が分からない。」などの理由を起因とする不登校が多い。
【保護者の考え】	・「どうしようもない」とあきらめ感をもっている。 ・子どもの将来や学力に不安を抱え、何とかしたいと登校を願っている。 (保護者の考えに二極化の傾向が見られる)

## 7 今後の課題

- 「ほっと」をより効果的に活用するには、全教員による研修の機会が必要であるため、プリントの配付のみで終わるのではなく、職員会議や校内研修の時間を活用して結果分析を行うなど、計画的に実施する必要がある。
- 「ほっと」を活用することの有効性について共通理解を図り、全ての学年・学級で計画的に運用できる指導体制を構築する必要がある。
- 本町の不登校児童生徒の特徴・傾向を踏まえ、今後は、効果的な不登校の未然防止策を実施するために教員の指導力の向上を図る必要がある。
- 「ほっと」「QU」の結果を分析し、小・中学校が連携を図り、それぞれの発達の段階に応じたコミュニケーション能力の育成を図る必要がある。

### ◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 「ほっと」「QU」の活用を学校全体の取組として位置付け、全教員が共通理解を図って取り組むことが大切である。
- まずは教員が「ほっと」「QU」の活用方法を学び、有効性を認識することが大切である。
- 「中1ギャップ解消」に向けては、児童生徒に対する接し方など、各教員の指導力の向上とともに、学習指導・生徒指導の際に、複数の教員で対応できる体制整備が不可欠である。

# 白老町立白老中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	白老町立白老中学校（生徒数 250 名）
連携小学校名	白老町立社台小学校（児童数 28 名） 白老町立白老小学校（児童数 160 名） 白老町立緑丘小学校（児童数 253 名）

## 本プランの特徴

- 自己有用感を高めることができる学年・学級経営を行うために、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用しています。
- 中学校進学への不安感の軽減や学習への意欲を高めるために、小学校と中学校の教員が連携し、「授業交流」や「出前授業」を行っています。
- 中学校の学習に抵抗感なく移行できるようにするために、「学習のきまり」と「家庭学習の在り方」を作成し、9年間を見通した学習規律の確立と家庭学習の定着に向けた取組を行っています。

## 1 中学校区の特徴

白老町は、北海道の南西部に位置し、東に苫小牧市、西に登別市、北には北海道の玄関口である千歳市、南には雄大な太平洋を臨んでおり、東西に28kmと細長い町である。白老中学校は、社台小学校、白老小学校、緑丘小学校の3小学校の児童が進学する。各小学校は学校規模が異なり、学校の距離も離れていることから、他校の児童と関わる機会は少年団活動や習い事を除くと多く見られない。

## 2 中学校区の課題

児童生徒は明るく、穏やかで、中学校入学後も比較的仲がよいが、人間関係が固定化する傾向が見られたり、多感な時期に初めて経験する大きな集団での生活に様々なストレスを抱えている生徒もいたりする。そのため、望ましい人間関係づくりのための取組を進める必要がある。また、基礎学力の定着が十分に図られていないため、学習意欲や学校生活に対する意欲が低くなっている児童生徒も少なくないことから、統一した学習規律を設定するなど、基礎的・基本的な学力の定着に向けた取組も進める必要がある。

## 3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

中1ギャップの未然防止を図るため、次の3点を重点目標として校区の小・中学校が連携して取り組むこととした。

- 【規律】・・・きちんと授業に参加して、
- 【学力】・・・基礎的な学力を身に付け、
- 【自己有用感】・・・認められているという実感をもった児童生徒の育成

## 4 中1ギャップ検討委員会の組織

所 属	役 職	所 属	役 職
白老町立白老中学校	教頭 教務主任 生徒指導担当教諭 地域支援本部	白老町立緑丘小学校	教頭 教務主任 生徒指導担当教諭
白老町立社台小学校	教頭 生徒指導担当教諭	白老町教育委員会	教育課長 指導主幹 SSW 教育支援センター指導員
白老町立白老小学校	教頭 教務主任 生徒指導担当教諭		

## 5 中1ギャップ解消プランの実際

時期	白老中学校	社台小学校	緑丘小学校	白老小学校
3月 ～ 4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各小学校との引継ぎ</li> <li>・新1年生の交友関係、生活状況の把握</li> <li>・配慮事項の確認</li> <li>○生徒指導事例研修（いじめ防止基本方針の確認）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校、幼稚園・保育所との引継ぎ</li> <li>・児童の交友関係、生活状況の把握</li> <li>・配慮事項の確認</li> <li>○生徒指導事例研修（いじめ防止基本方針の確認）</li> </ul>		
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育大会後の認め合い活動</li> <li>○ネットトラブル防止講演会の開催</li> <li>○心のバランスチェックの実施</li> </ul>	生徒指導連絡協議会 ・各学校の生徒指導実践交流		
		「いじめアンケート」の実施		
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回「中1ギャップ問題未然防止事業」運営協議会参加</li> <li>○薬物乱用防止・非行防止講演会の開催</li> <li>○教育相談の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育相談の実施</li> <li>○異学年交流の実施</li> </ul>		
	白老中学校区中1ギャップ検討委員会 第1回会議の開催			
		特別支援学級入級予定児童の保護者を対象とした授業公開		
		S S W、教育支援センター指導員との情報交流		
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会による生活改善運動</li> </ul>	子ども理解支援ツール「ほっと」の実施（1回目）		
		○非行と犯罪の予防講演会の開催		
8月		第1回 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析、情報交流会		
		特別支援学級 情報交流会		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導事例研修（不登校生徒の状況）</li> <li>○心のバランスチェックの実施</li> <li>○第1回集団カウンセリング研修会参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童理解交流会</li> <li>○薬物乱用防止教室</li> <li>○学級経営交流研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回集団カウンセリング研修会参加</li> </ul>	
9月		白老中学校区 学力向上ワーキンググループ会議の開催 ・取組、実践内容の確認		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心のバランスチェックの実施</li> <li>○全校道德の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教室・いじめ予防教室の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級経営交流会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活しらべの実施</li> </ul>
	中1ギャップ問題未然防止 保護者・地域講演会の開催			



10月	○心のバランスチェックの実施 ○学校祭後の認め合い活動				授業交流 ○教育相談の実施
11月					S S W、教育支援センター指導員との情報交流 生徒指導連絡協議会 ・「ほっと」の分析交流、各学校の生徒指導事例交流 「いじめアンケート」、教育相談の実施 白老中学校区 学力向上ワーキンググループ会議の開催 ・「学習のきまり」の策定 ○異学年交流の実施 ○携帯電話講座の開催
12月	○生徒会による生活改善運動 ○S C講演会の開催（1学年） ○第2回集団カウンセリング研修会参加				白老中学校区 学力向上ワーキンググループ会議の開催 ・「家庭学習の在り方」の策定（リーフレットを作成） 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施（2回目） 出前授業（数学・英語・理科） ○第2回集団カウンセリング研修会参加 ○グループエンカウンター、ピアサポートの実践 ○第2回集団カウンセリング研修会参加 ○生徒指導交流会の実施
1月	○生徒指導事例研修 ○心のバランスチェックの実施				第2回 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析、情報交流会 ○あいさつ運動の実施 ○学級経営交流会
2月	○心のバランスチェックの実施 ○S C講演会の開催（2・3学年）				○あいさつ運動の実施 生徒指導連絡協議会 ・「ほっと」の分析交流、各学校の生徒指導事例交流 中学校体験入学 ・児童生徒交流、体験学習 ・保護者対象のS C講演会 ・家庭用啓蒙リーフレットの配布 特別支援学級 情報交流会
3月	○心のバランスチェックの実施				白老中学校区中1ギャップ検討委員会 第2回会議の開催 小・中学校の引継ぎ

## 6 事業の成果

- 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用することにより、児童生徒のコミュニケーションに関わる課題や学年・学級の人間関係を客観的に把握でき、自己有用感を高める学年・学級経営の改善に向けた児童生徒理解に生かすことができた。
- 学力向上に向けた取組と並行して、「授業交流」や「出前授業」を複数回実施することにより、小・中学校の教員一人一人が異校種の学習内容について理解を深めることができ、中学校進学への不安感の軽減に向けて関連性を意識した授業を展開することができた。
- 学力向上に向けた取組と並行して、「学習のきまり」と「家庭学習の在り方」を作成したことにより、学習内容の確実な定着を図るため小・中学校が統一して学習規律の確立と家庭学習の定着に向けた指導を行うことができ、児童生徒の基礎学力の定着に結び付けることができた。

## 7 今後の課題

- 人間関係の固定化などの課題がまだ見られることから、児童生徒が交流する機会を増やし、校種を越えた異学年集団による活動を通して、中学校進学に対する不安感の軽減や中学校生活への期待をもたせる取組を一層工夫する必要がある。
- 中1ギャップの未然防止に向け学校と家庭が協力して取組を進めることが重要であることから、中学生の保護者を対象としたスクールカウンセラーによる思春期の特性についての講演会を開催するなど、中1ギャップの未然防止について、家庭の理解を深めていく必要がある。
- 学習意欲や学校生活に対する意欲が低い児童生徒がまだいることから、小・中学校間で統一した学習規律や家庭学習の取組をさらに進め、各学校の主要教科等のカリキュラムを交流するなど、児童が抵抗感なく中学校の学習に移行できるよう、授業内容の定着と改善を図る必要がある。

### ◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

#### ○子ども理解支援ツール「ほっと」の継続的な活用

「ほっと」を複数回活用し、その結果を学級集団と児童生徒一人一人に視点を当てて分析することは、学級集団と児童生徒の一人一人の変容を客観的に把握でき、学級経営や生徒指導の改善充実に向けた児童生徒理解に生かすことができる。

#### ○「授業交流」、「出前授業」による異校種理解の深化と児童の意欲化

児童生徒の実態を把握できる「授業交流」や児童が中学校の授業を実際に体験して理解できる「出前授業」を実施することは、異校種間の生徒指導や学習規律を理解する上で非常に有効であるとともに、児童の中学校進学への不安感の軽減や学習への意欲化につなげることができる。

#### ○滑らかな小・中学校の接続に向けた学習規律、家庭学習の在り方の策定

義務教育9年間を見通した学習規律の確立や家庭学習の定着に向けた取組を統一することは、小・中学校間における指導が一貫したものとなり、進学する児童が確実に学習した内容を身に付け、抵抗感なく中学校の学習に移行できるなど、指導上の段差を小さくすることができる。

# 長万部町立長万部中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	長万部町立長万部中学校(生徒数121名)
連携小学校名	長万部町立長万部小学校(児童数198名) 長万部町立国縫小学校(児童数4名) 長万部町立静狩小学校(児童数8名)

## 本プランの特徴

- 「小・中学校の連携の効果的な在り方」をテーマに事業に取り組んでいます。
- 「ほっと」による客観的な生徒理解に基づいた取組を展開しています。
- 「児童・生徒のつながり」を大切に活動の充実を図っています。

## 1 中学校区の特徴

長万部町は、人口6,000人ほどの町でありながら、幼稚園・保育所・小学校・中学校・高校・大学までの教育機関を有している町である。町の教育施策としても、これらの学校間の効果的な連携が挙げられており、さまざまな連携事業が実施されている。

## 2 中学校区の課題

長万部中学校校は、町内1校の中学校であり、本事業の連携校である3校の小学校から児童が進学する。以前から小・中学校間の連携は盛んであり、中1ギャップに対する数々の手立ても存在している。しかし、近年、学級減による人間関係の固定化など新たな課題に直面している。そこで、これらの課題に対応するための連携の在り方についての整備が必要となっている。

## 3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

- 中学校…小学校との連携を深め、「中1ギャップ」の解消と不登校の未然防止に向けた具体的な取組を行う。
- 小学校…「中1ギャップ」解消に向け、小学校間および中学校と連携し、6年生児童が中学校へスムーズに適応できるよう具体的な取組を行う。

## 4 中1ギャップ検討委員会の組織

所 属	役 職	所 属	役 職
長万部町立長万部中学校	校 長	長万部町立長万部中学校	教 諭
長万部町立長万部小学校	校 長	長万部町立長万部中学校	教 諭
長万部町立国縫小学校	校 長	長万部町立長万部小学校	教 諭
長万部町立静狩小学校	校 長	長万部町立長万部小学校	教 諭
長万部町立長万部中学校	教 頭	長万部町立国縫小学校	教 諭
長万部町立長万部小学校	教 頭	長万部町教育委員会	教育次長
長万部町立静狩小学校	教 頭	長万部町教育委員会	学校教育G主幹
長万部町立長万部中学校	教 諭		

## 5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	長万部中学校	長万部小学校・国縫小学校・静狩小学校
6月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業推進体制の整備(スタッフの確定・事前調査活動・先行研究の整理)</li> <li>○ 実施計画の作成</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育相談① ⇒4月からの学校生活への適応状況を 確認し、結果を交流する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合同修学旅行 ⇒3校の6年生が合同で修学旅行へ</li> </ul>
7月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小・中間の授業交流</li> <li>○ 夏休み学習会への小・中相互の教員派遣事業</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育相談② ⇒夏休み前までの学習面での適応状況 を確認し、交流する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合同学習① ⇒同じ中学校へ入学する上で、小学校段階で 交流を持たせていくことを目的に実施する</li> </ul>
8月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団カウンセリング研修会参加 (札幌)</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合同宿泊研修</li> </ul>
9月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>【第1回 検討委員会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの準備事項の交流(先行研究を含む)</li> <li>・今後の日程の確認</li> <li>・1回目の「ほっと」の実施について</li> </ul> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1回目の「ほっと」実施 ⇒実施後、各校で集計し、結果について 全教員で確認・検討する</li> <li>○ 歌声集会の準備</li> </ul> </div> <div style="width: 45%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1回目の「ほっと」実施 ⇒実施後、各校で集計し、結果について全教 員で確認・検討する</li> <li>○ 歌声集会の準備</li> </ul> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『歌声集会』の実施 ・小・中間の交流による合唱指導</li> </ul> </div>	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公開研究会に向けた準備 ・授業構想、学習指導案作成</li> </ul>	<div style="border: 2px solid black; background-color: #f0f0f0; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> <p>長万部町教育研究所集会 兼 長万部中学校公開研究会の開催</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; background-color: #f0f0f0; padding: 5px; width: 45%; text-align: center;">           授業公開・事後検討         </div> <div style="border: 1px solid black; background-color: #f0f0f0; padding: 5px; width: 45%; text-align: center;">           授業参観・事後検討         </div> </div>

<p>11月</p>	<p>○生徒による授業アンケートの結果の交流(授業改善のポイントの作成)</p>	<p>第2回 検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目の「ほっと」の結果交流 ⇒対応策の協議を含む</li> <li>・合同研修会の内容についての検討</li> </ul> <p>中1ギャップ未然防止事業 運営協議会参加 ⇒長万部小学校による実践発表</p>
<p>12月</p>	<p>小・中間の授業交流 冬休み学習会への小・中相互の教員派遣事業</p> <p>集団カウンセリング研修会参加 (札幌)</p>	<p>○小学校間の交流授業</p>
<p>1月</p>	<p>○研究報告書の作成</p>	<p>「小・中合同研修会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師 北海道教育大学函館校 本田真大先生</li> <li>・内容 『ソーシャルスキルトレーニング』</li> </ul> <p>小学6年生 授業・部活動見学学習</p> <p>「中学校生活で不安なこと・疑問なこと」のアンケート実施</p>
<p>2月</p>	<p>○2回目の「ほっと」実施 ○教育相談③</p>	<p>長万部中学校 入学説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会による学校行事の説明やアンケートの回答</li> <li>・体験授業(英語&amp;理科)</li> </ul> <p>○2回目の「ほっと」実施</p> <p>第3回 検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回目の「ほっと」の結果交流</li> <li>・今年度の取り組みの成果と課題</li> <li>・次年度の取り組みについての検討</li> </ul> <p>渡島管内研究実践交流会参加 ⇒成果の他校への発信</p>

3月	○生徒による授業アンケートの結果の交流(授業改善のポイントの作成)	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「ほっと」を活用した小・中間の引継ぎ</div>

## 6 事業の成果

- 中学校の公開授業の事後研では、小学校の教職員からの意見をいただき、学習の系統性や小・中で共通して取り組むべき課題について確認することができた。
- 例年行われている見学会や説明会の実施時期、内容を改善することで、児童はより明確なイメージをもつことができ、中学校生活への意欲付けや不安解消への相乗効果がみられた。
- 研修会に参加した教職員が「様々な場面で活用できる取組」として捉え、各校に戻って全職員に広める活動につなげることができた。
- 歌声集会では成長した中学生の姿を見せることができ、中学校生活への意欲付けとなった。
- 各校の教職員で、学校間で「ほっと」の結果を共有し対応を協議することで、客観的な面から生徒の実態に即した指導を行うことができた。
- 小学校6年生の「ほっと」のデータは、中学校への引継ぎの資料として活用する。

## 7 今後の課題

- 教職員間の交流については、さらにその機会を増やすとともに、それぞれの取組に対する理解を深めるための実践を工夫することが必要である。
- ソーシャルスキルトレーニングもエンカウンターもより効果的に取り組むためには、年間の活動に明確に位置付けることが必要である。
- 次年度以降は、さらにトレーニングや「ほっと」の活用の方法について広げていくとともに、年間の指導計画などにも反映させていくことが必要である。
- 「ほっと」以外にもアセスなども活用し、多様な角度からの分析が必要である。

**◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇**

- 中1ギャップに対する取組は、以前よりどの学校においても実施されており、まずはそれらを精査し、意図的、計画的に配置することで、取組をより有効的なものにできる。
- 「小・中学校の連携」は、さまざまな可能性をもっており、児童生徒間の交流による連携、教員間の交流による連携など多様な方向性があり、それらを組み合わせることで9年間を見通した教育活動を具現化することができる。
- 「ほっと」を活用したことで、これまでの児童生徒理解に加え、客観的な数値による集団の傾向の把握を行うことができ、より深い生徒理解が可能になった。「アセス」などの生活アンケートを組み合わせることでさらに多面的な生徒理解を行うことが可能になる。
- 授業見学や学校説明会での体験授業の取組は、小学校から中学校への学習面・生活面での接続をスムーズに行う上で有効な取組であった。こうした取組を不安の解消を目的としたものに留めることなく、学習への意欲付け、学習内容の確実な定着等に結び付けていくことが大切である。

# 江差町立江差北中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 江差町立江差北中学校 (生徒数 64名)

連携小学校名 江差町立江差北小学校 (児童数 106名)

## 本プランの特徴

- 小・中学校が互いの教育内容や児童生徒の実態について共通理解を図り、学習指導及び生徒指導を行うため、小中一貫活動日を設定し、合同職員会議及び指導グループ会議を開催したり、研修会等を実施したりするなどして、教職員間の連携を強化する取組を進めています。
- 小中一貫教育を推進するため、系統的な算数・数学科の指導や体系的な郷土学習「えさし学」を中心とした小中9年間を見通したカリキュラムを作成しています。

## 1 中学校区の特徴

江差町の北部に位置し、水田や畑が広がっている平野部、海岸線に沿って開けている地域と変化に富んでいる。近年、本中学校区周辺に病院、高等学校、総合病院施設、アパート、大型スーパーマーケット等の施設が建設され、人口は増加傾向にある。

## 2 中学校区の課題

本中学校区は、江差北小・中学校で構成される。両校は、校舎が棟続きとなっていることから、町教育委員会との連携の下、平成23年度から小中一貫教育を推進している。

児童生徒は、全体的に明るく素朴であり、楽しく学校生活を送っている反面、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身に付いていない児童生徒がいることや、学力差が大きいことが課題である。

また、固定化された人間関係のため、学校生活になじめなくなると、不登校傾向になる生徒が見られる。

## 3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

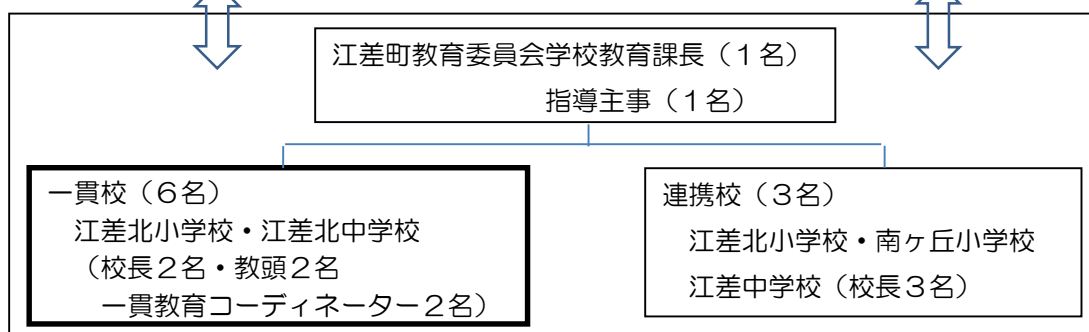
- 江差町立江差北小学校  
「豊かな心をもち、自ら学ぶ子どもの育成」
- 江差町立江差北中学校  
「学力や生活における、基礎・基本を身に付けた生徒の育成」

## 4 中1ギャップ検討委員会の組織

保護者・地域（3名）

江差北小学校PTA会長・江差北中学校PTA会長  
江差中学校区青少年健全育成会長

北海道教育庁檜山教育局指導主事（1名）





## 5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	江差北小学校	江差北中学校
年度 未 までに	○平成25年度生徒指導全体計画、特別活動全体計画、特別支援教育全体計画の作成（目標、重点、方策）	○平成25年度生徒指導全体計画、特別活動全体計画の作成 ○平成25年度入学生の情報交換（配慮が必要な児童について）
4月	○生徒指導全体計画、特別支援教育全体計画、特別活動全体計画についての共通理解 ○前期の縦割り班の編成・活動計画の立案	○1学年部会の実施 ○部活動入部へ向けた取組
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">                     第1回小中一貫教育活動日                      ○全体会 平成25年度の一貫教育の推進について確認                      ○グループ別活動(学習指導G、生徒指導G) ・グループメンバーの確認 ・月別具体的活動計画作成                 </div>		
		○「心の健康観察」⇒教育相談
5月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 90%;">                     第2回小中一貫教育活動日                      ○全体会 月別具体的活動計画の確認                      ○グループ別活動(学習指導G、生徒指導G)                      ・乗り入れ授業案 ・授業交流会案 ・海浜清掃活動案 ・生徒指導交流会案等 ・避難訓練案等                 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;">                     ○第1回江差町小中一貫教育推進委員会                 </div>		
6月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 90%;">                     第3回小中一貫教育活動日                      ○全体会 第1回江差町小中一貫教育推進委員会報告(事務局)、乗り入れ授業、授業交流会提案(学習指導G)、海浜清掃、生徒指導交流会、合同避難訓練(火災)、ソーシャルスキル学習について(生徒指導G)                      ○グループ別活動(学習指導G、生徒指導G)                      ・算数・数学カリキュラム検証方法の検討 ・ソーシャルスキル学習指導案検討 等                 </div>	
○海浜清掃	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 40%;">                     ○中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会                      ○ソーシャルスキル学習(中1～3)                 </div>	○海浜清掃
7月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 90%;">                     第4回小中一貫教育活動日                      ○全体会 第1回生徒指導交流会                      第1回小中授業交流について(学習指導G)、ソーシャルスキル学習について(生徒指導G)                      ○グループ別活動(学習指導G、生徒指導G)                      ・「えさし学」の推進案の検討 ・算数、数学カリキュラム検証方法の検討                      ・避難訓練(地震) ・吹奏楽交流会 ・ソーシャルスキル学習検証 等                 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;">                     ○小中合同避難訓練(火災)                      ○小中合同ソーシャルスキル学習(小5・6年・中1年)                      ○第1回生徒指導交流会                 </div>		
○乗り入れ授業(外国語活動6年)		○乗り入れ授業(数学1年)
8月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;">                     ○中1ギャップ問題未然防止事業研修会                      ○ソーシャルスキル学習(中1～3)                 </div>	
9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 90%;">                     第5回小中一貫教育活動日                      ○全体会 中1ギャップ未然防止事業研修会報告、「えさし学」推進について、算数・数学カリキュラム検証方法(学習指導G)、避難訓練(地震)実施計画、海浜清掃反省、吹奏楽交流会実施計画、赤い羽根共同募金実施計画(生徒指導G)                      ○グループ別活動(学習指導G 生徒指導G)                      ・乗り入れ授業感想について ・算数・数学カリキュラムの改善 ・小中合同ソーシャルスキル学習 等                 </div>	



	<p>○第2回江差町小中一貫教育推進委員会 ○小中合同避難訓練(地震・津波) ○鹿追町小中一貫教育研究大会参加</p>	<p>○授業交流会 ○乗り入れ授業(数学1年)</p>
10月	<p>第6回小中一貫教育活動日 ○全体会 第2回江差町小中一貫教育推進委員会報告(事務局)、鹿追町小中一貫教育研究大会報告 乗り入れ授業について(学習指導G)、ソーシャルスキル学習について(生徒指導G)、 ○グループ別活動(学習指導G、生徒指導G) ・算数・数学カリキュラムの改善 ・部活動紹介、体験入部 ・避難訓練(地震)の反省 等</p>	
	<p>○小中吹奏楽交流会 ○ソーシャルスキル学習(中1～3)</p>	
	○赤い羽根共同募金	○赤い羽根共同募金
11月	<p>第7回小中一貫教育活動日 ○全体会 「ほっと」の学習会、第2回授業交流会について(学習指導G) 避難訓練(火災)反省 部活紹介、体験入部について(生徒指導G) ○グループ別活動(学習指導G、生徒指導G) ・算数・数学カリキュラムの改善 ・生徒指導交流会 ・避難訓練(地震)反省 ・小中ソーシャルスキル学習 等</p>	
	<p>○小中合同赤い羽根共同募金活動(児童会・生徒会) ○「ほっと」の学習会 ○小中合同ソーシャルスキル学習(小5・6、中1) ○三戸町小中一貫教育視察 ○小中一貫教育研究全国サミットinつくば参加</p>	
12月	<p>第8回小中一貫教育活動日 ○全体会 乗り入れ授業の感想について、算数・数学カリキュラムについて(学習G) 生徒指導交流会について、小中ソーシャルスキル学習について 避難訓練(地震)反省、「ほっと」の取組の強化に向けて(生徒G) 三戸町小中一貫教育視察報告、小中一貫教育研究全国サミットinつくば参加報告 ○グループ別活動(学習指導G、生徒指導G) ・各種テスト分析 ・乗り入れ授業の感想 ・ソーシャルスキル学習 ・算数、数学カリキュラムの改善 等</p>	
	<p>○部活動体験入部 ○第3回江差町小中一貫教育推進委員会 ○中1ギャップ問題未然防止事業研修会 ○「ほっと」の実施</p>	○授業交流会
1月	<p>小中一貫教育研修日 ○第2回生徒指導交流会</p>	
	<p>○第2回生徒指導交流会 ○小中合同ソーシャルスキル学習(小5・6、中1)</p>	○部活動体験
2月	<p>第9回小中一貫教育活動日 ○全体会 第3回江差町小中一貫教育推進委員会報告(事務局)、小中ソーシャルスキル学習(生徒指導G) 各種テスト分析提案、乗り入れ授業の感想について(学習指導G) ○グループ別活動(学習指導G、生徒指導G) 年間活動の反省等</p>	
	<p>○中学校入学説明会(小学校6年生の児童が中学校の授業体験を行い、中学校生活への不安を軽減する。)</p>	

	<p>○中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会 ○ソーシャルスキル学習(中1～3)</p>
	<p>第10回小中一貫教育活動日 ○全体会 平成25年度一貫教育年間活動の反省 ○グループ別活動(学習指導G、生徒指導G) 平成25年度一貫教育年間活動の総括・展望</p>
3月	<p>第11回小中一貫教育活動日 ○全体会 平成25年度一貫教育年間活動の総括・展望、「中1ギャップ」問題未然防止事業の総括・展望</p>
	<p>○小中一貫教育講演会 ○小中引継ぎ ・「アセス」・「ほっと」のデータによる引継ぎ ○第4回江差町小中一貫教育推進委員会</p>

## 6 事業の成果

- 乗り入れ授業は、担当者の綿密な打合せのもとで授業を行い、効果的に行うことができた。
- 小中合同でのソーシャルスキル学習は、今年で2年目となるが、普段の授業の中でも学んだ事を想起し生かそうという意識が感じられるようになった。
- 小中の合同行事・異学年交流では、中学生に「先輩としての自覚」や「自律心」が育まれた。また、中学生がリーダー性を発揮する場面を見ることによって、小学生は、中学校・中学生に対する「安心感」や「信頼感」を感じることができた。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」の活用方法に関する研修を行い、児童生徒についての理解・把握の幅を広げることができた。
- 年間を通じて、小・中学校の教職員が定期的・継続的に合同で会議や打合せを行うことにより、小・中学校の教職員が互いの教育活動や児童生徒の実態について理解を深め、指導に生かすことができた。

## 7 今後の課題

- 小中合同でのソーシャルスキル学習は今年で2年目となるが、スキルを確実に定着させるために、3年間は同じ内容で行う必要がある。
- 今年度は、各活動の内容を充実させるために、効果的な実施時期の設定や見直しなどを図ってきた。今後、中1ギャップ未然防止事業全体を総括的・系統的に見渡し、洗練したものへと発展させていく必要がある。
- 本事業への取組を通じた、児童生徒の変容を見取るため、「ほっと」「アセス」等のツールや他のアンケート等を有効に使い、「事前・事後の比較」や「数値」などで、より具体的に確認できるようにしていく必要がある。
- 今年度の取組の重点の一つであった、授業や行事以外での日常的な児童生徒及び教職員の交流は不十分な面があった。次年度は、日常的な交流が活発に行われるよう、手立てを工夫する必要がある。

### ◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 小・中学校が合同で、ソーシャルスキル学習や行事などを行い、児童生徒の好ましい人間関係を構築するとともに、小学校から中学校への円滑な接続を図ることが大切である。
- 学習に関する児童生徒の不安を解消するために、小・中学校教員による相互乗り入れ授業や授業交流会を実施し、9年間を見通した系統的な指導を行うとともに、児童生徒の長期的な学習状況の把握による、きめ細かな指導を行うことが大切である。
- 小・中学校の教職員の共通理解の下、組織的に推進していくことが大切であることから、学校間の連携を図り、常に日常的に情報交流を行うことができる推進体制が必要である。